

- 2 金毘羅山遺跡はMT15期で、比較対象の他例がTK43～217期であるため、高松平野より東に位置する金毘羅山遺跡で煙道Aが分布するのは地域差ではなく時期差の可能性もある。
- 3 竈が良好な状態で記録された報告は多くない。特に袖部の構造は、竈に対する認識不足が原因で調査データがなく状況不明なものも多い。

### 第3節 高松平野における6～7世紀の集落動向と大下遺跡

#### 1 集落の動向

大下遺跡ではTK217～46期の竪穴建物15棟、掘立柱建物7棟を検出している。特にI区では竪穴建物が数棟重複し、調査対象地外の北方に展開する可能性もある。つまり、この時期に居住遺構が集中して築かれる場所ともいえる。このような大下遺跡の状況を理解するために、高松平野での居住に伴う遺構の変遷を確認したい。

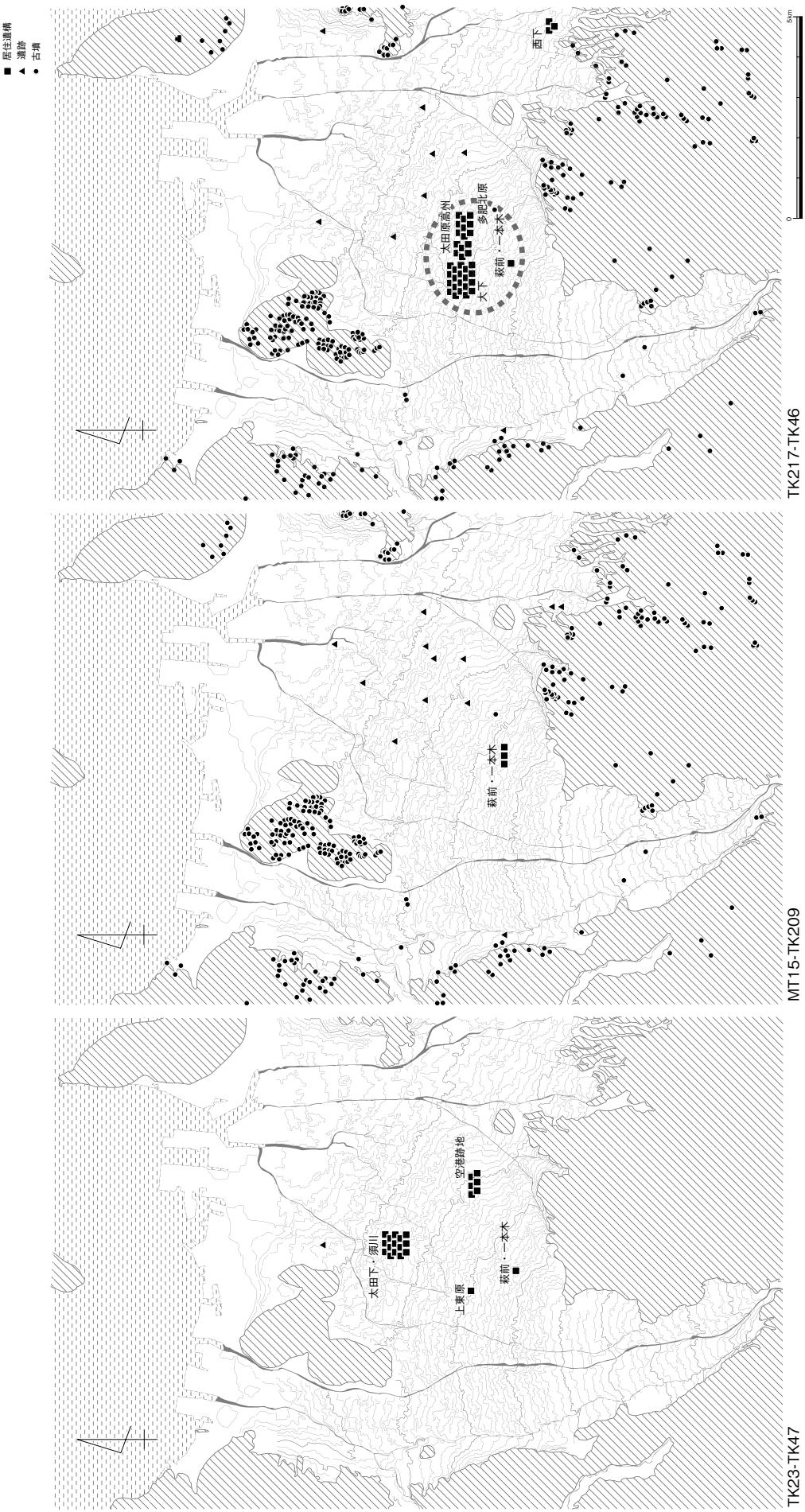
高松平野では、TK23～47期に太田下・須川遺跡と空港跡地遺跡で居住遺構が確認できる。現在調査が進められている萩前・一本木遺跡でも同時期の居住遺構があるようだ(註1)。太田下・須川遺跡は竪穴建物と掘立柱建物で構成する集落、空港跡地遺跡は竪穴建物のみが確認される集落である。また、竈は空港跡地遺跡にのみ導入されるように、集落内の構造や建物構造に差異が認められる。続く6世紀には、萩前・一本木遺跡でTK43～209期を中心に竪穴建物などが展開するが、それ以外の遺跡では須恵器の出土はあっても居住遺構は確認できない。TK217期になると、大下遺跡の近隣の太田原高州遺跡や多肥北原遺跡に竪穴建物を中心とした集落が築かれる。多肥北原遺跡では大下遺跡同様、竪穴建物が重複するように配されている。また、高松平野東部の西下遺跡では大型の掘立柱建物3棟が確認されており、柱穴や上位の包含層出土遺物からTK217期と考えられている。

以上をまとめると、TK23～47期に高松平野の数箇所に点在していた居住遺構は、直後にははっきりとは見えなくなる。TK43期には高松平野中央部の萩前・一本木遺跡にある程度まとまった居住空間が設けられ、TK217期になると1kmほど北の大下遺跡や多肥北原遺跡で多数の竪穴建物が築かれるようになる。両遺跡では竪穴建物が重複して築かれており、居住地を形成する場に固執しているようにもみえる。西下遺跡のような掘立柱建物数棟の集落もあるが、高松平野、特に香東川右岸の発掘調査事例の蓄積を考慮すれば、大下遺跡周辺の平野中央部に居住遺構が集中する集落が形成されていることは指摘できそうだ。すなわち、大下遺跡の竪穴建物が築かれるTK217期は、高松平野での居住遺構の増加と集中といった特徴をもつ画期と評価できる。

#### 2 古墳との比較

6世紀には横穴式石室を主体部とする古墳が築かれ、飛鳥時代に入る7世紀にも追送は継続され、一部の古墳の構築も続く。第121図には集落とともに古墳のドットも表示している。なお、TK23～47期築造と断定できる古墳はなく、以降の古墳についても築造時期や追送期間の認定が明らかな事例は少數である。そのため、図は厳密なものではなく、後期古墳のおおまかな分布傾向を知るためのものになっている(註1)。

MT15期以降の図をみると、高松平野での後期古墳の分布は、平野北部の石清尾山と周囲の山塊、西部の五色台山麓、東部の前田丘陵、南部の4箇所に集中域がある。これらの古墳の築造基盤を高松平野



第125図 6-7c 集落変遷図

内の集落に求めるのであれば、平野中央部にまとまる萩前・一本木遺跡および大下遺跡、多肥北原遺跡が候補となる。集落との距離でいえば石清尾山と周辺の山塊か南部が近く、石清尾山周辺は4地域のなかでは最も古墳の数が多い。また、いわゆる巨石墳は五色台山麓や前田丘陵にある。平野中央部の集落が、どの地域の古墳と関係があるのか推測するのは困難であるが、TK43期以降、平野中央部以外にまとまった集落がないことを踏まえれば、4か所いずれもが候補となりうる。

ただし、横穴式石室墳の築造時期は、一般的にはTK209期までが多数を占めるだろうから、古墳の築造とTK217期の集落動向の画期は結び付かない可能性もある。古墳の築造と集落の関係については萩前・一本木遺跡の集落動向も重要な要素となるため、萩前・一本木遺跡の成果や古墳の築造時期や追送期間が明らかになった時点で再度検討したい。

### 3 高松平野における集落動向の画期としての大下遺跡

高松平野では、居住遺構の増加と平野中央部への集中がみられるTK217期が集落動向の画期であり、大下遺跡はこの画期を示す集落である。大下遺跡や多肥北原遺跡では、同じ地点で建物の建て替えが行われており、居住域が限定されている印象を受ける。居住域外の状況は不明だが、たとえば生産域など周辺の土地利用に居住域が規制されているのかもしれない。また、大下遺跡では堅穴建物の主軸はほぼ2方向に限られ、多肥北原遺跡でも数度の幅のなかに収まる。居住域の集中と堅穴建物の限られた主軸方位は、居住域とその周辺域が計画的に空間配置されている可能性を示唆する。

また、高松平野における居住遺構のTK217期における増加は、6世紀以降、旧練兵場遺跡で連綿と居住遺構が形成され続ける丸亀平野のあり方とは対照的にみえる。TK209期以前に居住遺構が形成されている萩前・一本木遺跡は大下遺跡から約1kmの距離にあり、萩前・一本木遺跡から大下遺跡や多肥北原遺跡などへの集落立地の移動は考えやすい。ただし、居住遺構数の大幅な増加は萩前・一本木遺跡からの移動だけでは説明ができない。この場合、平野外からの移動も視野に入れる必要があるが、堅穴建物の造り付け竈や移動式竈にみられる調理スタイルの差異から、移動元は丸亀平野以外に求めることになるだろう。

#### 註

1 「香川県遺跡地図」に掲載されている古墳のうち、前～中期を除いて、主体部が横穴式石室と推測されるものをドットで示している。大半のものは築造時期と追送期間を断定できないため、MT15期以降の2枚の図の両方にドットがある。

#### 参考文献

- 大久保徹也 1995「基幹的灌漑水路と灌漑単位」香川県埋蔵文化財調査センター編『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第6冊 上天神遺跡』  
大久保徹也 1997「吉野下秀石遺跡の発掘調査」香川県埋蔵文化財調査センター編『国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成8年度』  
木下晴一 1991「条里型地割施工以後の微地形変化—丸亀市飯野町付近の事例—」『香川地理学会会報』11  
杉井 健 1993「竈の地域性とその背景」『考古学研究』40-1  
信里芳紀 2008「大溝の検討—弥生時代灌漑水路の位置付け—」『香川県埋蔵文化財センター研究紀要』IV  
渡邊淳子 2003「讃岐における古代移動式竈について」善通寺市教育委員会文化振興室編『四国学院大学構内遺跡発掘調査報告書』

#### 発掘調査報告書

- 稻木遺跡：稻木遺跡発掘調査団編 1989『稻木遺跡～県道西白方善通寺線樫藪踏切除去工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～』  
太田原高州遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2011『香川県埋蔵文化財センター年報 平成22年度』／香川県埋蔵文化財センター編 2012『香川県埋蔵文化財センター年報 平成23年度』  
川津一ノ又遺跡：香川県埋蔵文化財調査センター編 1997『中小河川大東川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 川津一ノ又遺

跡／香川県埋蔵文化財調査センター編 1998『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第30冊 川津一ノ又遺跡Ⅰ』  
 川津川西遺跡：香川県埋蔵文化財調査センター編 1999『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第33冊 川津川西  
 遺跡・飯山一本松遺跡』  
 旧練兵場遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2013『独立行政法人国立病院機構善通寺病院統合事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告  
 第3冊 旧練兵場遺跡Ⅲ』  
 空港跡地遺跡：香川県埋蔵文化財調査センター編 2002『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第5冊 空港跡地遺跡V』  
 ／香川県埋蔵文化財センター編 2004『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第8冊 空港跡地遺跡Ⅷ』／高松市教育  
 委員会編 2011『高松市埋蔵文化財調査報告書第134集 住宅型有料老人ホームリトモ高松新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報  
 告書 空港跡地遺跡』  
 金毘羅山遺跡：香川県埋蔵文化財調査センター編 2000『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第36冊 金毘羅山  
 遺跡I 塔の山南遺跡 庵の谷遺跡』  
 佐古川・窪田遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2006『一般国道32号綾歌バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊  
 佐古川・窪田遺跡』  
 四国学院大学構内遺跡：善通寺市教育委員会文化振興室編 2003『四国学院大学構内遺跡発掘調査報告書』  
 下川津遺跡：香川県埋蔵文化財調査センター編 1990『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ 下川津遺跡』  
 大門遺跡：香川県教育委員会編 1987『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 大門遺跡 矢ノ岡遺跡 利  
 生寺遺跡 利生寺古墳 北条遺跡 道免遺跡』  
 多肥北原遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2012『県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥北原遺  
 跡』  
 多肥平塚遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2013『県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥平塚遺  
 跡』  
 多肥松林遺跡：香川県埋蔵文化財調査センター編 1999『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊 多肥松林遺跡』  
 俊正遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2008『一般国道32号綾歌バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊 俊正遺跡』  
 仲村廃寺：善通寺市教育委員会編 1989『仲村廃寺～旧練兵場遺跡における埋蔵文化財発掘調査報告書～』  
 西下遺跡：高松市教育委員会編 2008『西下遺跡 高松市十河小学校校舎建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』  
 林・坊城遺跡：香川県埋蔵文化財調査センター編 1993『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第2冊 林・坊城遺跡』  
 東中筋遺跡：高松市教育委員会編 2001『都市計画道路東浜港花ノ宮線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊 東中筋遺跡—第  
 1次調査—』  
 日暮・松林遺跡：高松市教育委員会編 1997『都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 日暮・松林遺跡』  
 ／高松教育委員会編『香川県済生会病院移転新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 日暮・松林遺跡(済生会)』／高松市教育  
 委員会編 2005『特別擁護老人ホーム(なでしこ香川)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 日暮・松林遺跡(済生会特養ホー  
 ム)』  
 弘田川西岸遺跡：香川県埋蔵文化財調査センター編 2008『広域基幹河川弘田川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 弘田川西  
 岸遺跡』  
 宗高坊城遺跡：高松教育委員会編 2004『都市計画道路福岡三谷線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 宗高坊城遺跡』  
 南天枝遺跡：香川県埋蔵文化財調査センター編 2003『県道富田西志度線道路改良事業及び県道高松長尾大内線道路改良事業に伴う  
 埋蔵文化財発掘調査報告 寺田・産宮通遺跡 南天枝遺跡』  
 山田下吉田遺跡：綾川町教育委員会編 2007『山田下吉田遺跡』  
 吉野下秀石遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2007『一般国道32号バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊 吉野下  
 秀石遺跡』